

第2回山口県地震・津波防災対策検討委員会の議事概要

日時：6月21日（木）10:05～12:05

場所：県庁4階 共用第3会議室

出席者：三浦会長、兵動委員、金折委員、羽田野委員、栗山委員

- 議題
- 1 日本海で想定する津波断層モデルについて
 - 2 津波浸水予測手法について
 - 3 地震動予測手法について

■議事概要

議題1 「(1)日本海で想定する津波断層モデルについて」(資料1)

日本海域で想定する津波断層については、表1の「本検討委員会の評価」により想定断層1、想定断層2、想定断層4を対象断層とする。また、想定断層3は断層3-Cと安全側を考慮して断層3-Bの2つを対象断層とし、計5つを想定断層とする。

上記5つの津波断層モデルについて、すべり量等を設定することになるが、値の設定等はより専門的で、もう少し調査を要し、かつ時間的余裕もないことから、事務局が関係する委員の意見を聞きながら最終的に、委員長に判断を任せることとする。

(主な意見)

- 東海・東南海・南海の3連動の他に4連動、さらには慶長の地震タイプも一緒に考えるという極端な場合を想定していくという流れであったが、日本海側では可能な限り情報収集を行い、確実性の高い想定で行くことを考えたらよい。
- 南海トラフ沿いの地震に関しては過大評価、過剰反応し過ぎではないか。シミュレーションはある仮定の下にどんな結果でも出せる。起こり得るパターンを多く仮定して、その結果得られたそれぞれの最大値を包絡し、津波高の最高値とすることは、現実には1つのケースしか起こり得ない点からすると問題があるのではないか。
- 山口県沿岸域ではこれまで海底調査がされているので、これらのきちんとしたデータに基づいてシミュレーションをしていくのが最も科学的ではないかと思う。
- 本県では、近隣県より一歩踏み込んだ絞り込みをやるようになると思う。県民にきちんと説明できる根拠が必要になってくる。
- 一度図に出たものは重視され、それを打ち消すのは非常に難しい。しかし、その後海底調査等が行われ、海底の変位が認められている範囲をきちんとおさえてあげれば、それはそれで十分に説明ができると思う。

議題2 「(2)津波浸水予測手法について」(資料2)

この手法で実施することを承認

(主な意見)

- この数値に含まれている意味、精度、誤差の程度等をきちんと把握し、必要があれば県民の皆さんにきちんと説明できる準備をしておくことが必要と思う。

議題3 「(3)地震動予測手法について」(資料3)

この手法で実施することを承認